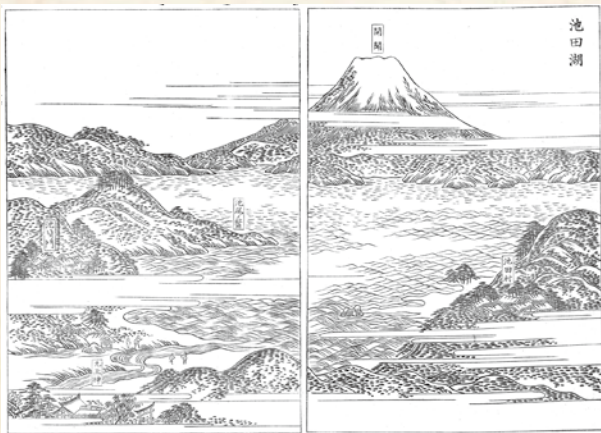


前略、市史編さん室より

指宿市史の刊行に伴って、本市の歴史を示す史料をまとめた史料編を刊行する計画です。今回は、その中から江戸時代の指宿の様子が分かる史料を紹介します。

描かれた指宿

江戸時代には、全国各地の名所を紹介したガイドブックのような本である『名所図会』の刊行が盛んに行われました。薩摩藩でも、藩主の命令で名所の絵図などが描かれ、将軍に献上されたりしました。また、天保14年(1843)にまとめられた『三国名勝図会』には、現代の旅行ガイドブックのように県内各地の風景を描いた絵が掲載され、当時の指宿の姿を見ることができます。



『三国名勝図会』から「池田湖」(指宿図書館蔵)

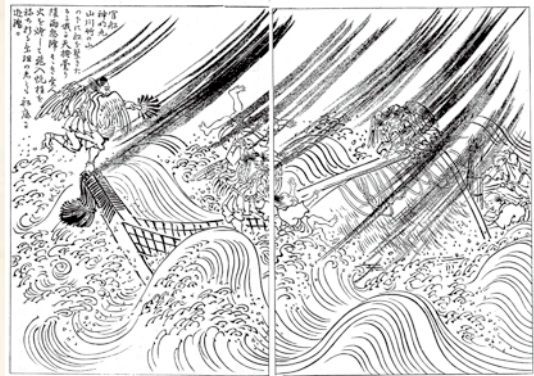
池田湖は、神龍が潜って居るところで、風が吹かないのに湖面に波が起こったり、湖水の色が変化するなどさまざまな変異が起こる場所とされています。

天狗の話

文化9年(1812)に刊行された『倭文麻環』は、藩内の昔の話・伝承・不思議で恐ろしい話などを絵付きで紹介しています。

指宿については、竹山の天狗について紹介されています。それによると、山川の竹山には、昔から不思議な出来事があり、土地の人たちは天狗の仕業としてひどく恐れ敬っていたといいます。文化8年(1811)には次のような出来事が起こりました。

「11月2日の夜明け前、明神丸という船が竹山の東側の鷺の口の下に碇を下ろしたところ、竹山に火の玉が現れた。船員たちは何事かと見ていると、明神丸の帆柱の上に大男が提灯のようなものを灯していることに気付いた。船員たちはその恐ろしさに皆気を失い、ばたばたと倒れた。あとで見ると、明神丸の帆柱は、高さ3m位のところでねじ折れたようになっていた。それまではどんな大風でもそんなことは起



『倭文麻環』から船を壊す天狗(鹿児島県立図書館蔵)

こらなかったが、昔から船を係留することが禁じられていた場所に船を停めたことが原因で起きた災難だった。またある時、児ヶ水の男2人が山川麓(現在の福元区)で飲んで帰っていたが、夜更けであるにも関わらず大声で歌いながら竹山の下を通りかかった。すると、いきなり背丈6m余りの大山伏が現れ、仁王立ちに2人をまたぎ、光り輝く目でらみつけた。2人は魂を失い、鼠のように逃げ帰った。その後2人は、死ぬまで竹山には行かず、子々孫々にいたるまでそれを守るように言い残した]



『倭文麻環』から「竹の山の化物」(鹿児島県立図書館蔵)

このように、江戸時代には現代では考えられないようなさまざまな伝承があったのです。

指宿市史史料編では、他に山川港や枚聞神社、開聞岳などの美しい絵図、江戸時代の人々の姿、指宿を旅した人物が描いた指宿神社のクスノキの絵、明治時代の初めに西欧人が描いた開聞岳の絵などだけでなく、温泉地として栄えた近代の指宿の絵付きパンフレットなども紹介していきます。

指宿市の古い資料や写真などの情報を集めています

ご自宅にある古いものが大切な資料かもしれません。情報がありましたら、ご一報ください。

2次元コードからも連絡できます



総務課 市史編さん室 ☎080-8210-1656